

Colégio Santo Inácio de Loiola

Colégio São João de Brito

Escola Secundaria de Nossa Senhora de Fátima

聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院（中学高等学校 2013 年開校）
聖ジョアン・デ・ブリトー学院（教員養成専門学校 2014 年開校）
ファティマの聖母高等学校（既存）

東ティモール・奨学金プログラムへのご協力のお願い

カトリック・イエズス会
浦 善孝

カトリック教会の男子修道会であるイエズス会は、2013 年より東ティモールに貧しい家庭の子どもたちのための中学校を新たに開校することになりました。続いて、中等教育に携わる教員を養成する教員養成専門学校を開校する予定です。また当地のイエズス会は、首都ディリ郊外の山間部ライラコで 200 名が通う高等学校をかねてより運営しています。

この度、これら 3 つの学校で学ぶ生徒、学生のための「聖イグナチオ学院奨学金プログラム」を設立いたしたく、皆様にご寄付のお願いを申し上げます。国内におきましても東日本大震災の復興支援など私共が志を向けなければならない場所はございますが、あわせて海外にいる学ぶために奨学金を必要としている若者たちのためにもご支援をお願いいたします。

私はイエズス会司祭として同会を設立母体とする上智福岡中学高等学校（泰星学園）や六甲中学高等学校で働いて参りましたが、2012 年度より東ティモールに派遣され、これら 3 つの学校で働くことになっています。したがって、現地で私がこの奨学金プログラムの運営責任を負う予定です。趣旨をご理解いただきご協力を賜れますように、お願ひ申し上げます。



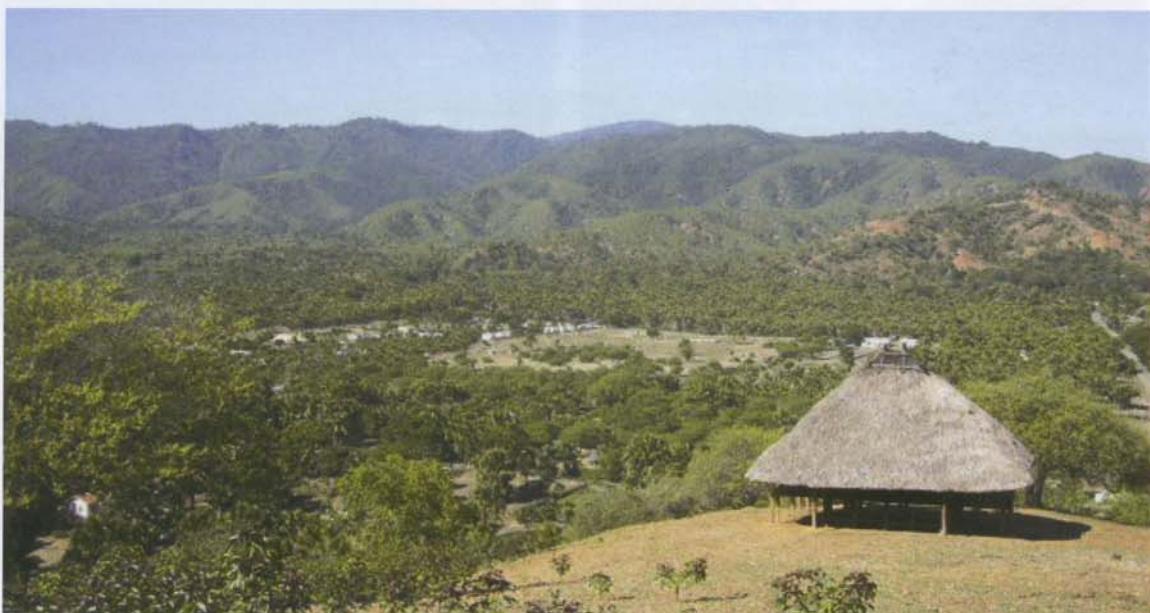
東ティモールの首都ディリ中心部にいた子どもたち

東ティモールについて

カトリック・イエズス会は、中国、アフリカ、ミャンマー、JRS（イエズス会難民サービス）等における奉仕活動とならんで、東ティモールでの活動も優先課題の一つとしています。東ティモールは 16 世紀半ばからのポルトガルの植民地時代と、第二次世界大戦中の 3 年間の日本軍による占領時代を経て、1974 年のポルトガル撤退後 1976 年にインドネシアに併合されました。すでに独立の機運がありましたがインドネシア統治時代には同化政策がとられました。その後国連の仲介によりインドネシア政府とポルトガル政府の合意のもとに 1999 年のインドネシアからの分離独立を諮る住民投票が実施された結果、東ティモールの独立が決定されました。しかし、インドネシア軍撤退の際には、破壊活動や強制的な西ティモールへの住民移住が行われました。そのために 1975 年以降、多くの難民と 20 万人近い死者、行方不明者が発生したといわれています。21 世紀になって初の独立国となった東ティモール（2002 年 5 月）は、その後も政情は安定せず住民の生活もなかなか向上しないのが現状です。独立 10 周年を迎える 2012 年には、同国での国連活動も終了する予定です。このような状況の中で、若者と社会のために質の高い学校教育が待望されています。

奨学金プログラムの設立経緯

2009 年 8 月に福岡で 6 日間にわたって開催された東アジア・オセアニア地区のイエズス会学校ワークショップでは、東ティモールの新しい学校設立を各国のイエズス会学校がいかに支援するかということがテーマとなりました。そのワークショップの中で、日本からの会議参加者（イエズス会四校と言われる、栄光学園中学高等学校、六甲中学高等学校、広島学院中学高等学校、上智福岡中学高等学校（泰星学園）の理事長、校長とイエズス会教育推進の担当教員）たちは、日本の 4 つのイエズス会学校は各校で募金活動をして東ティモールの新しい学校の生徒たちに奨学金を送ろうというアイデアを提案し、実現へ向けて動き始めました。この運動には、「生徒から生徒へ」顔の見える交流にしたいとの思いが込められています。同時に、私たちも東ティモールの人びととの交流から多くを学ぶことができるだろう、ということも考えられました。しかしながら、世界最貧国の一つに数えられる東ティモール



聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院の建設予定地遠景 写真中央部の広い土地



ライラコの高校の教室



ライラコの高校の生徒と学校で働くシスター

ールとは容易に連絡が取れず、また新しい学校設立の進捗状況や現地の社会情勢も不確かで、誰に送金すれば確実に支援が生徒の奨学金のために使われるかということはつきりしない状況が続きました。そこで、2011年2月に一人のイエズス会学校の教員が現地視察のために派遣されました。その報告もふまえて、イエズス会四校の理事長・校長会議は、募金活動は各校の判断で行うが、送金は当面見合わせることにしました。

新しい学校設立に先立ち、東ティモールのイエズス会は20年ほど前からディリ大司教区より聖ヨゼフ学園（高等学校）を委託され運営に携わっていました。近年になって、ディリ大司教区が聖ヨゼフ学園を自ら運営できるようになるという話があり、それに合わせてイエズス会でも独自の新しい学校を設立しようという計画が立案されました。同時に、そのため土地購入や教員養成等の準備も開始されました。2011年半ば聖ヨゼフ学園の運営が同年12月をもってイエズス会から当地の教会に返還されることが決定されたことに伴い、イエズス会東アジア・太平洋地区協議会は、イエズス会が運営する新しい中学高等学校を2013年に開校することを正式に決定しました。

この新しい学校は首都ディリの西18kmに位置するカサイ（Kasait）に建設され、主に農村に住む貧しい家庭の子どもたちを教育する目的で設立されることになっています。そして、中学高等学校の設立に引き続き、充分な養成を受けた適格な教員を養成するための3年制の教員養成専門学校の設立も当初の計画に加えられました。この専門学校はオーストラリア・カトリック大学と提携し学位が認められる予定です。これら2つの新設される学校と並行して、当地的イエズス会は山間部ライラコにある高等学校の運営も引き続き行います。

ご協力のお願い

この趣旨に賛同いただけるすべての皆様に、これらの学校で学ぶ生徒のためのご寄付をお願いいたします。今日、私たちは物質的に豊かな社会の中にあって恵まれた環境にあります。今度は、私たちが貧しく様々な困難に直面している国の若者の就学を支援できればと思います。また、イエズス会四校の在校生のみなさん、同窓会の皆様、そして母の会など保護者の皆様へも「聖イグナチオ学院奨学金プログラム」に格別のご協力をいただけますようお願いいたします。どのイエズス会学校も、戦前から戦後にかけて諸外国からの金銭的援助と宣教師派遣によって設立されて参りました。それらの学校では、学ぶ生徒たちの熱意も伴い、質の高い理想的な学校教育が今日に至るまで実践されてきています。東ティモールの学校も、日本のイエズス会四校と同じようにして設立され、若者が学ぶ場となるでしょう。

聖イグナチオ学院奨学金プログラム

- A 一口 3万円 (生徒1人分の年間経費／教育里親)
1人分の授業料と教科書・制服代（1年分）+ 教員給与・設備費・給食補助等
- B 自由募金 生徒の授業料サポート（奨学金）のため

■振込先■

みずほ銀行 四谷支店

(宗教法人力トリックイエズス会) 東ティモール聖イグナチオ学院基金

↑()内は省略可

店番号 036 口座番号 普通預金 2232164

*ご寄付をされた場合は、下記へご連絡をいただけますようにお願いいたします。

■連絡先（現地世話人・責任者）■

浦 善孝 〒810-0032 福岡市中央区輝国1-10-10 イエズス会修道院

tel. 092-751-2465 fax 092-751-4593 e-mail: urasj@jesuits.or.jp

Yoshitaka Ura (2012年5月中旬以降の連絡先)

Residência Santo Inácio de Loyola

Taibesi, Cinarate, Dili, Timor Leste (P.O.Box 209, Dili, Timor Leste)

tel. +670-332-4828 fax +670-331-2869 e-mail: urasj@jesuits.or.jp

*聖イグナチオ学院奨学金プログラムのHP http://www.jesuits.or.jp/~j_uraj/index



中央部山岳地帯の市場



ディリ郊外の山間にある民家



ディリの海辺

東ティモールの新しいイエズス会学校 設立概要
聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院（中学高等学校 2013 年開校）
聖ジョアン・デ・ブリトー学院（教員養成専門学校 2014 年開校）

Instituto de Educação Jesuita:
Colégio Santo Inácio de Loiola / Colégio São João de Brito

*以下は、イエズス会東アジア・オセアニア地区協議会が発表したものの翻訳。

東ティモール民主共和国の教育大臣は、東ティモールのイエズス会が政府との連携を保ちながら、2013 年初めに開校が予定されているイエズス会の教育施設を通して、当地におけるイエズス会教育の伝統を今後も継続することに認可を与えた。

1. 目標

- －男女共学の中学校、高等学校である Colégio Santo Inácio de Loiola を 2013 年に設立する。（2013 年に 75 名の中学一年生の入学をもって開校）
- －中学校、高等学校の教員養成のための学位取得が可能な 3 年間のプログラムを提供する Colégio São João de Brito を 2014 年に設立する。この学校は、東ティモール社会全体に奉仕する教育施設である。（2014 年に約 25 名の学生の入学をもって開校）

2. 背景

東ティモールでは教育の必要性、とりわけ質の高い教育を受けたいという人びとの望みは計り知れないほどのものがある。1899 年、ソイバダ (Soibada) にはじめてイエズス会修道院が設立された時から、同会は東ティモールの人びとのために教育と司牧活動に携わってきた。ライラコ (Railaco) やスアイ (Suai) のような地方の教区における活動とともに、イエズス会はディリ (Dili) 教区のために聖ヨゼフ学園でも 20 年以上にわたって教育活動に携わってきた。2003 年 9 月 13 日に署名された覚書を見ると、ディリの司教によってイエズス会に次のようなミッションが託されている。「福音の価値に根差し、将来の社会と教会のリーダーとして働く東ティモールの若者を教育し養成すること」。その後ディリの司教は、2011 年の終わりに聖ヨゼフ学園の運営を教区で引き受ける決断をした。その結果、イエズス会は新しい時代に見合う質と深みを伴った価値観に基づく教育活動を独自に開始する自由を得た。最終的に 2011 年 12 月 14 日、その年の学校年度末をもってイエズス会は聖ヨゼフ学園から去ることになった。

すでに 2008 年から 2009 年にかけて、新しい学校のために地元の土地所有者から 7 ヘクタールの土地を購入している。2010 年には、敷地を囲むフェンスが完成した。準備計画書は 2010 年中に発表されていたが、2011 年に中等教育のための教員養成学

校設立を加えた新しい計画が了承された。東ティモール教育省はこの計画に賛同の意を示し、その後より詳細な計画と準備を整え 2011 年 12 月、教育省の大蔵へ正式の認可申請を提出し、同年 12 月 20 日に設立が認可された。

3. ヴィジョン

東ティモールのイエズス会は、東ティモールの人びと、とりわけ最も貧しい若者に奉仕するために、質の高い教育プログラムを備えた教育施設を当地に設立する。

4. ミッション

イエズス会の教育施設は、グローバル化して絶えず変わりゆく世界にあって、イグナチオの伝統、カトリックの信仰、そして東ティモールの文化的コンテキストに見合う批判的で、能力があり、世話を育てるリーダーを育てる。

5. 学校所在地

すでに東ティモールのイエズス会は、イエズス会の教育施設を建設するために下記の場所に 7 ヘクタールの土地を確保している。

Aldeia (sub village)	Mane - Motu and Teresari
Suco (village)	Ulmera
Distrito(District)	Liquiça

6. カトリックの司教区

マリアナ司教区 (Maliana Diocese) のドン・ノルベルト・ド・アマラウ司教は、2011 年 2 月 2 日、同教区内のリキサ小教区に設立される学校のプロジェクトに対して賛同とともに認可を与えていた。

7. 学校の特徴

- －カトリックの、そしてイエズス会の教育施設として、保護者と地域共同体との協力をえて、カトリックの信仰を培いながら全人的な教育を行う。
- －特にこの教育施設は、イエズス会教育の使命とアイデンティティに深く根ざすものとする。
- －イグナチオ的教授法 (Ignatian pedagogical paradigm) に倣い、情報コミュニケーション技術 (ICT / Information and Communication Technology) を用いながら「経験 → 省察 → 行動 → 評価」の学習サイクルを強調した教授法を用いる。あわせてこのような教授法が実践可能な教育環境を整える。
- －地域の共同体に出向く校外における奉仕活動と、学校の課外活動を大切にすることを通して、生徒の全人的成長を促進する。
- －学校に勤務している教職員のための研修、そして勤務を開始する前の事前研修においても、学校に関わるすべての人びとに価値に基づいた教育を行うことが強く求められる。
- －この学校は東ティモール政府教育省のカリキュラムに従い、学校教育はポルトガル語で行われ、またテトゥン語と英語も教える。

8. カリキュラムの大枠

- －学校教育においては、ポルトガル語を主に用いる。
- －政府が定めたカリキュラムと教科を教える。

9. 学校組織

この学校は、スクール・ディレクター、校長、チャップレン、生活指導主事、財務・経営主事からなるコア・グループによって運営される。Colégio São João de Brito の開設は、聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院との連携によって行われる。

10. 基金

- －建設基金：イエズス会東アジア・太平洋地区協議会は、日本、オーストラリア、シンガポールをはじめ他のイエズス会各管区の財政支援を受けるとともに、広く東ティモールのイエズス会学校建設のための資金を求める呼びかけをはじめている。すでに、土地取得や初期の計画を実現させるための資金は集められた。
- －今後の安定した運営資金：設立後の運営資金は、生徒からの学費、可能ならば政府からの援助、そして奨学金基金の設立によって賄う予定。これまで当地のイエズス会は、ディリにあった聖ヨゼフ学園を援助を仰ぎながら自主財源で経営してきた経験がある。

11. 教職員の雇用

- －政府教育省とイエズス会のミッションに照らし合わせ、双方から要求される資格や資質を満たした適格な教職員を採用する。
- －雇用期間と条件：学校当局は雇用契約、勤務倫理規定、そして勤務査定システムを策定する。
- －雇用期間中の教職員の専門的養成は、教職員をサポートする重要な事柄だと認識している。

2011年12月
以上

■東ティモールの統計■

首都 ディリ 面積 1.5万km² 人口 115.4万人 気候 熱帯雨林気候
平均寿命 61.6歳（男 60.7 女 62.5） 識字率 50.6%（女 42.5%）
一人あたり国民総所得 2,460ドル（日本 38,080ドル）
公用語 テトゥン語・ポルトガル語 民族 主にメラネシア系 他にマレー系など
宗教 キリスト教 92%（カトリック 87%） イスラム教 3% 伝統信仰 3%
自動車保有台数 1500台（うち乗用車500台、1台当たり2,384人）
公式通貨 米ドル 固定電話加入者数 2,400回線（百人当たり0.2回線）
携帯電話加入者数 60万人（人口比53.4%）（日本 人口比95.4%）
インターネット利用者数 2,100人（人口比0.2%）（日本 人口比76.8%）
日本の対東ティモール貿易 輸出6億9,063万円（乗用車43.3% トランクとバス16.6% 輸入38億3,832万円（原油53.8% 天然ガス42.3% コーヒー1.3%）
＊統計は『データブック・オブ・ザ・ワールド』2012年（二宮書店）より。



連絡先

浦 善孝 〒810-0032 福岡市中央区輝国 1-10-10 イエズス会修道院
tel. 092-751-2465 fax 092-751-4593 e-mail: urasj@jesuits.or.jp

Yoshitaka Ura (2012年5月中旬以降の連絡先)
Residência Santo Inácio de Loyola
Taibesi, Cinarate, Dili, Timor Leste (P.O.Box 209, Dili, Timor Leste)
tel. +670-332-4828 fax +670-331-2869 e-mail: urasj@jesuits.or.jp